



国土交通省 近畿地方整備局
Kinki Regional Development Bureau
Ministry of Land, Infrastructure,
Transport and Tourism

近畿地方整備局 浪速国道事務所	配布日時	平成29年 2月 9日 14時00分
資料配布		

件名	4月1日に^{はんなん}阪南市と和歌山市を結ぶ、 国道26号^{だいに はんわ}第二阪和国道が全線開通！ ～ 国道26号 第二阪和国道の開通で国道26号の交通混雑が緩和 ～
----	--

概要	<p>○国道26号 第二阪和国道 (大阪府泉南郡岬町淡輪^{せんなん みさき たんのわ}～和歌山県和歌山市平井^{ひらい} 延長7.6km)が 平成29年4月1日(土)に2車線で全線開通します。(※孝子ランプを除く。)</p> <p>○その中で、孝子ランプについては平成28年12月19日の発表のとおり、 今回は開通しません。</p> <p>主な整備効果</p> <ul style="list-style-type: none">■交通混雑の緩和 最大3kmを超える渋滞が発生しており、その解消が期待。■交通安全の確保 全国平均を上回る死傷事故率120件/億台kmの低減が期待。■救急医療の支援 岬町から最寄りの第三次救急医療機関(和歌山市域)までの所要時間が 4分短縮。■災害時の代替路の確保 過去5年間で18回【延べ規制時間約213時間】の通行止めが発生。 <p>○開通式典の概要については、後日お知らせいたします。</p> <p>○ランプ名称は、大阪府及び岬町^{みさき}からのご意見を踏まえ、下記の通り決定 しましたのでお知らせします。</p> <p>ランプ名称：「^{ふけ}深日ランプ」「^{きょうし}孝子ランプ」</p>
----	---

取扱い	
-----	--

配布場所	近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、大阪府政記者会、 和歌山県政記者クラブ、和歌山県地方新聞協会、和歌山県政放送記者クラブ
------	---

問い合わせ先	国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所 副所長 河野 純一 (こうの じゅんいち) 調査課長 大西 健一 (おおにし けんいち) TEL 072-833-0261(代表)
--------	--

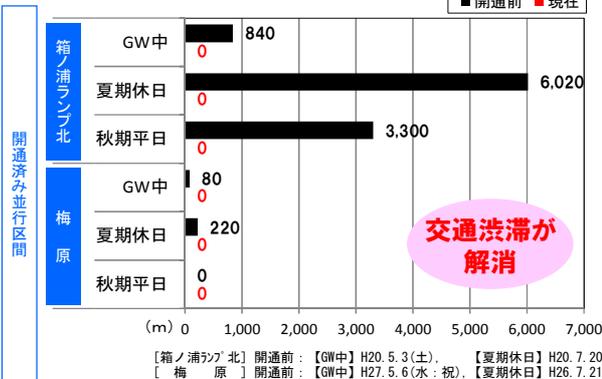
交通混雑の緩和

- 開通済み並行区間に位置する箱ノ浦ランプ北交差点や梅原交差点では、開通前の渋滞が解消しており、交通状況が改善。
- 渋滞が残る今回開通区間に並行する区間(淡輪ランプ～深日中央間)においても同様の効果が期待。

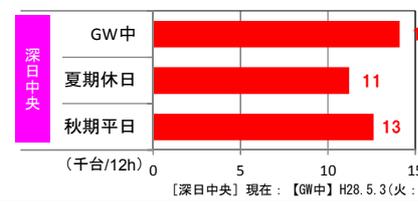
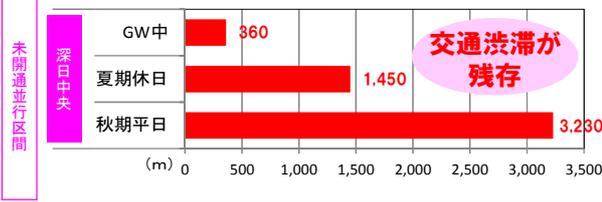
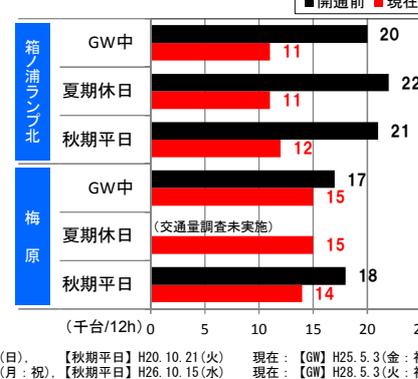


第二阪和国道並行区間の交通状況

【渋滞長：大阪方面行き】



【断面交通量】

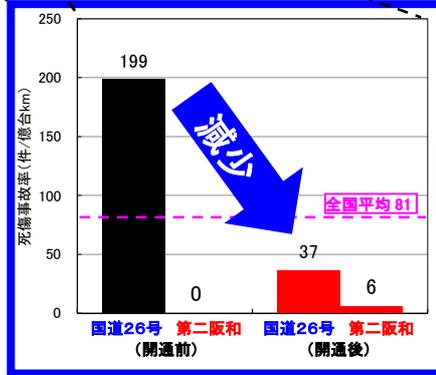
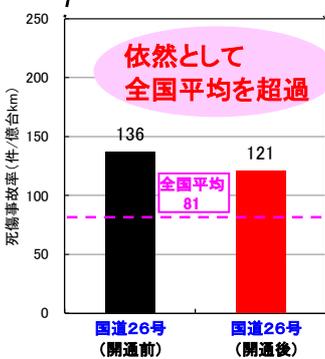


出典：浪速国道事務所交通量調査結果
 交通量：7:00～19:00の12時間調査結果 渋滞長：7:00～19:00の12時間調査結果における最大渋滞長

交通安全の確保

- 平成23年3月に部分開通した、箱ノ浦～淡輪ランプに並行する国道26号では、開通前後で死傷事故率が大幅に減少しており、特に追突事故は年間31件から7件となり、約8割減少。
- 事業中区間に並行する国道26号においても第二阪和国道の整備により交通が転換し、死傷事故率の減少が期待。

国道26号・第二阪和国道の死傷事故率の変化

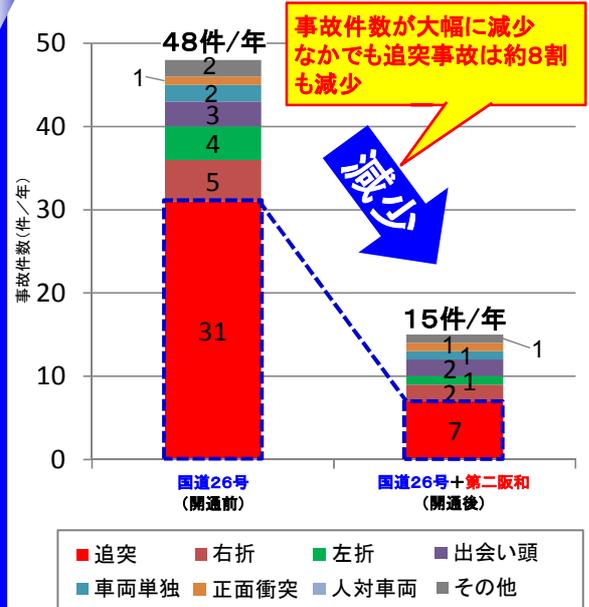


出典: ITARDAデータ
 開通前: H19.3.26~H23.3.25 (4年間データの年平均)
 開通後: H23.3.26~H26.3.25 (3年間データの年平均)
 全国平均値は、全国の一般国道平均値: 警察庁資料、自動車統計年報を基に国土交通省作成



●国道26号及び第二阪和国道における事故類型別事故件数の変化 (箱ノ浦～淡輪ランプ)

【開通前後の国道26号及び第二阪和国道の類型別事故件数の変化(年平均)】



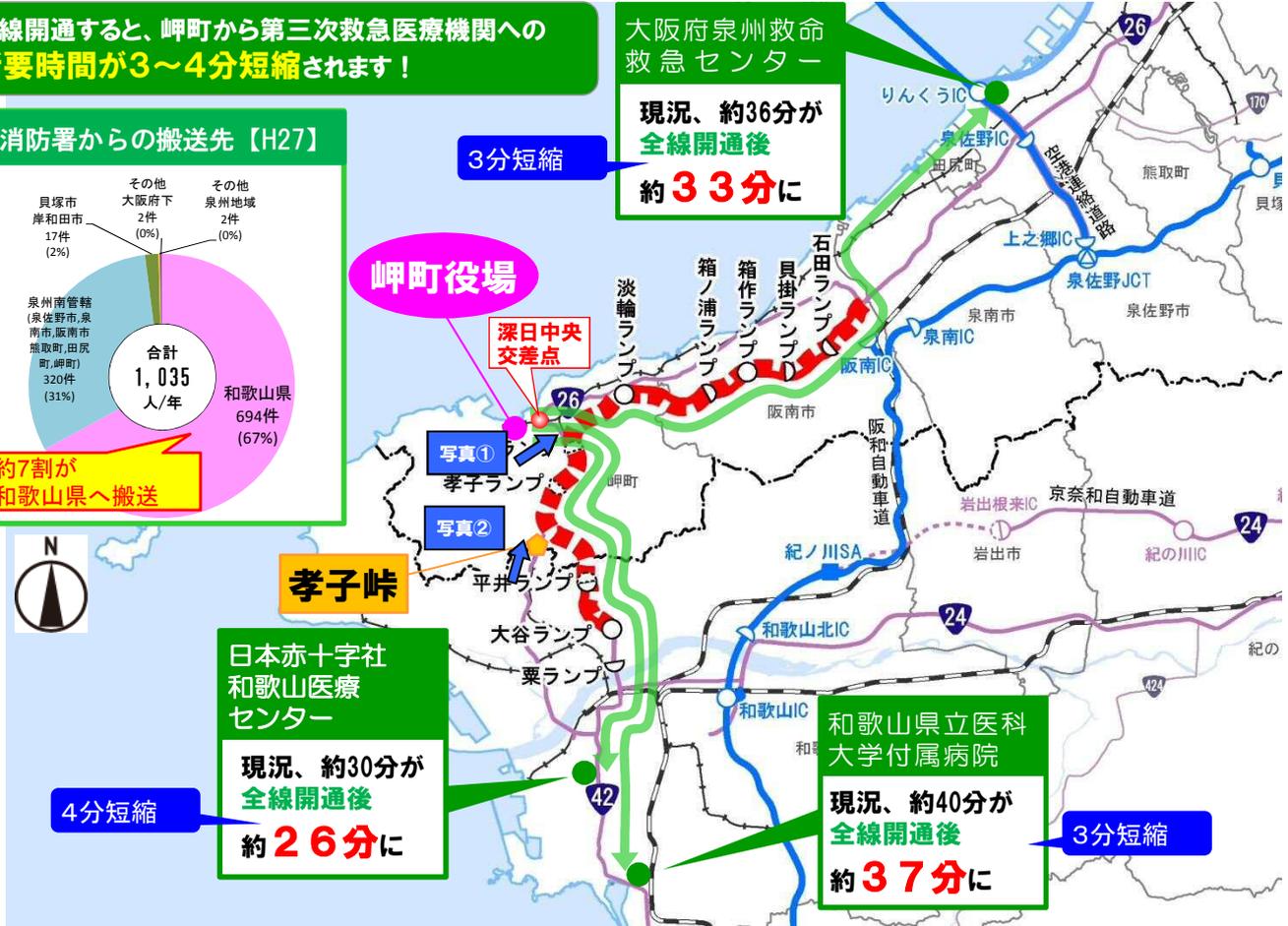
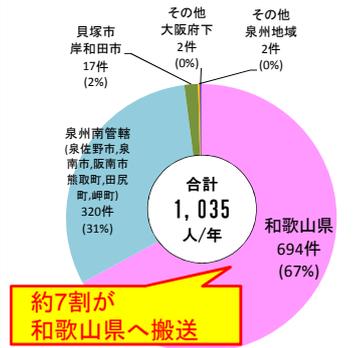
出典: ITARDAデータ
 開通前: H19.3.26~H23.3.25 (4年間データの年平均)
 開通後: H23.3.26~H26.3.25 (3年間データの年平均)

救急医療の支援

- 現在、岬町からの第三次救急医療機関への所要時間は30分以上必要。
- 第二阪和国道が全線開通することにより、岬町から最寄りの第三次救急医療機関(和歌山市域)までの所要時間が4分短縮。

全線開通すると、岬町から第三次救急医療機関への所要時間が3~4分短縮されます！

岬消防署からの搬送先【H27】



※所要時間は、民間プローブデータ(平成27年4月~12月)より算出
 【第二阪和国道(淡輪ランプ~平井ランプ間)】:設計速度(ランプ部60km/h、本線部80km/h)
 【その他の路線・区間】:平日ピーク時間帯(8時台)の平均値を使用

地元消防本部からの声

- 開通済み区間の平井~大谷間は、搬送ルートとして利用するケースが増えており、スムーズに走行できるため、患者への負担軽減が期待される。
- 国道26号の孝子峡はカーブが多くて線形が悪いほか、減速舗装による振動もあり、搬送患者に負担がかかるため、搬送時に気を遣います。
- 深日中央交差点は、土日祝日など大阪方面行きの渋滞がひどく、大阪側へスムーズに出動できないことがある。
- 国道26号の事前通行規制区間が通行止めになった場合、阪和道まで大きな迂回を要するため、一刻一秒を争う救急にとって、第二阪和国道の早期開通が望ましい。
 (泉州南広域消防本部へのヒアリング結果より)



災害時の代替路の確保

- 大阪府・和歌山県を結ぶ幹線道路のほとんどに異常気象時通行規制区間が設定されており、大雨等の自然災害により過去5年間で18回(延べ規制時間約213時間)の通行止めが発生。
- 第二阪和国道が全線開通することにより、新たな府県間ルートが確保され自然災害や異常気象等にも強い、安全で安定した物資輸送を確保。

大阪・和歌山府県間道路の過去5年間の自然災害による通行止め状況 (H23~27)



出典:各道路管理者提供資料 (NEXCO西日本、大阪府、和歌山県提供)
平成23年度~平成27年度に発生した自然災害による通行規制



国道26号通行止めによる深日中央交差点付近の渋滞 (岬町深日地先)



国道26号通行止めによる迂回状況 (岬町深日地先)

※写真はいずれもH22.7.14豪雨時のもの